

体育科部会

研究主題 一人一人が運動の楽しさを知り，意欲をもって取り組む体育学習

1 主題について

従来のテーマを引き継いでいる。部活動などで運動に取り組む子どもと，全く取り組まない子どもとの二極化が進んでいる。そうした中で運動の楽しさを知り，実生活の中で運動に親しんでいこうとする態度を育てることは生涯にわたって重要なことである。今年度は主に，表現運動を素材とし，研究実践を進めてきた。

2 今年度の取組

月 日	実践内容	月 日	実践内容
4月12日	第1回総合研 研究主題確認・年間計画作成	6月26日	第2回総合研実技研修会 授業研究会(城南小学校)
6月6日	実技研修会 全県体育に向けての協議	10月31日	第33回秋田県学校体育研究大会 大館北秋田大会

3 研究内容

(1) 実技研修

- ・期 日 平成24年6月6日(水) ・会 場 有浦小学校
- ・内 容 子どもの体力指導者養成研修の伝達
- ・指導者 有浦小学校教諭 福山 健太

(2) 授業研究 I

- ・期 日 平成24年6月26日(火)
- ・会 場 城南小学校
- ・単元名 1年だいすき！どうぶつランド(表現遊び)
- ・授業者 高橋 博秋



【1年生の授業の様子】

① 授業者から

- ・カードを取り入れた動きはよかったが，教師の位置，指導のタイミングなど迷った。めあてを確かめたのがかえって動きを固定化させてしまった。
- ・生き物の本を見せておいたが，よく知っているものでないと動けなかった。
- ・評価が難しい。聞き取りをすれば確実だが，後からでは忘れている。カードは振り返りをするという意識付け程度だった。

② 協 議

- ・しつけが行き届いている。話を聞く態度がとてもよかった。教師の優しい語りかけがよい。
- ・「たいへんだ！」カードの内容が大切だと思う。もう少し大きな動きになるようなものを吟味する必要がある。教師が評価する時間を確保するために，見合う活動もあればよい。
- ・動きの緩急が出るものを考えなければならない。カードは二枚引くことでバリエーション

- が出るようになっていたが、組み合わせによって動けるものとそうでないものがあった。
- ・長い時間ローテしながらあきずがんばった。後半は、全体で同じことをさせる場面があると評価もできる。半分ずつ見合うなどすればよい。



【お互いの動きを見合う】

(3) 授業研究Ⅱ

- ・单元名 5年力強くおどろう！「NEW ソーラン節」
- ・授業者 小林 潤

① 授業者から

- ・からだほぐしは前時に考えていたものをやらせたのでスムーズにいった。4つの崩しを言わなくても子どもたちで工夫していた。
- ・動きを書き込む資料を準備していたが、渡すと座り込んでしまいそうなのでやめた。
- ・グループ練習の時の声かけが難しい。交流もあったが、子どもたち同士がポイントを意識して見ていたか疑問である。交流の際に時間を短縮させるアイデアを教えてほしい。

② 協議

- ・CDは一台だったが、兄弟グループのやりとりができるようにすればグループが生きた。そのためにはCDが複数台あってもよかった。
- ・ねらいに迫る動きを全体で確認したのがよかった。ただし、その動きをお互いにチェックできる場があればよかった。
- ・リズムを取れる子どもがリーダーになり、グループ内で見合いながらできればよいと思ったが、学年の実態でどこまで求めればよいのかを考えなければならない。
- ・グループ交流というねらいがあったので、全体ではなく、グループ同士で交流ということにすれば時間は短縮できたと思う。

(4) 指導助言 (安田 知明 指導主事 ・ 高橋 敏治 指導主事)

- ・保育園から中学校まで一堂に会し、研修できる機会は大変よい。
- ・2学年のまとまりのゴールは、2学年の終わりにB規準が達成できているかということである。指導内容を縦に結んで、ねらいを絞ると評価の観点も決まる。
- ・1時間に3つの評価は無理がある。バランスよく配置する。単元が終わった時に3つの観点ができればよい。
- ・今後は、ビデオなどで動いている姿を撮影し、それを見るなどの活動も考える必要がある。
- ・指導と評価の整合性が必要。10月の全県体育に向けて検討してほしい。

4 成果と課題

(1) 成果

- ・表現運動についての授業の蓄積がかなりできてきた。授業の素材や、組み立てについてのノウハウが共有された。

(2) 課題

- ・各学年の系統性を踏まえた指導内容の明確化。特に、2学年のまとまりについての指導や評価がまだ十分ではない。ねらいと評価の一体化を図る授業改善がなお一層求められる。